

第34回 長崎県子ども会伝承芸能大会

平成25年1月19日(土)、長崎県子ども会伝承芸能大会が開催されました。長崎市、長与町から5団体が出演し、地域に伝わる伝承芸能を披露しました。子どもたちは日頃の練習の成果を発揮し、あらためて伝承芸能の素晴らしさを伝えました。



「福田ハイヤ節保存会」

代表 小森 道子

私たち「福田ハイヤ節保存会」は、平成13年11月11日に設立しました。

その2年前に福田地区の自治会長さんから、歌詞カードをいただき、右も左もわからない時、当時の「長崎オランダ年」で「樺島ハイヤ節」を知りました。

「樺島ハイヤ節保存会」の伝承者の故 岩崎キクエ先生に相談して、採譜していただきました。岩崎先生には、うた、はやしの地方(じかた)を一から教えていただき、8年前の「長崎県子ども会伝承芸能大会」に出場しました。

今回はすでに成人してママさんになったメンバーと、新しいメンバーで参加しました。

私たちの練習は、毎週土曜日に福田地区公民館で行っています。

夏は地区の夏まつり、秋はくんち、病院やケアハウスの慰問などを行っています。

「福田ハイヤ節」の歌詞の中には、「福田丸木の千本松」や「福田名物エソかんぼこ」など、地域の名所名物が出て来ます。毎回それをうたう事で、子どもたちの中に福田を愛する心が育っていけばと願っています。

私たちは「幟龍陣(のぼりりゅうじん)」という和太鼓集団でもあります。「幟龍陣」は、辰年に立ち上げました。「陣」とは、本陣のことで「子どもたちよ、社会に大きく翔ばたけ!私たちは、ここで見守っているからね」という想いを込めました。何かあったら、いつでも帰っておいで!という想いです。

三味線、和太鼓など普段体感することのない邦楽器で、仲間とひとつの音を求め、気持ちを合わせながら一体感を感じる事で、これからの生きる力にしてほしいと願っています。

私たちは、これからも新しい仲間と出会いながら「福田ハイヤ節」を地域の中で伝承していこうと思っています。



福田ハイヤ節保存会



▲赤ちゃんとともに参加



育成協の取組み〈小江原中学校区青少年育成協議会〉

三校合同交流会プラス福島のこどもたち

平成24年7月25日(水)、小江原中育成協と手熊小、桜が丘小、小江原小の育友会との共催でふれあいデイキャンプが行われました。「長崎で遊んでいかなね!プロジェクト」と協力し、プロジェクト参加の福島県いわき市の東日本大震災で被災された小学生20名を招いて、児童64名が柿泊に集いました。出会いの集会に始まり、弁天白浜での海水浴、ペーロン体験、バーベキュー等々、盛りだくさんのプログラムでしたが、一人ひとりの子どもたちが楽しく交流をすることができました。いわき市の小学生にとっても、忘れがたい一日となったことと思います。



▲みんなで海水浴を楽しみました。



お別れのとき。みんなでアーチを作り、いわき市の子どもたちを見送りました。



地区ペーロン保存会の方々の協力でペーロン体験をさせていただきました。いわき市の小学生は全員ペーロン船を見るのも初めてということでした。

会長さんから漕ぎ方を教えていただくと早速乗船し、漕ぎ出すことになりました。太鼓やドラの音でリズムをとって掛け声も勇ましく、ペーロン船が進んでいきました。

子どもゆめフェスティバル 2012



▲大人気のゲームコーナー

平成24年11月17日(土)に長崎県立総合体育館で開催されました。

約1,500名の方々にお越しいただき、会場内は子どもたちの笑顔で溢れ、大いに賑わいました。ありがとうございました。

次回も皆さんのお越しをお待ちしております!!

編集後記

川の流れるように~誰もが知っている名曲である。

現在、源から海まで一切手付かず自然のままの河川はわずかであろう。治水ダム、護岸設備、橋梁、湾口等永年人の手によって管理されている河川が多い。先程の東日本大震災が発生し自然の凄さを改めて知らされた。管理するのではなく共存を考えながらこつこつ進めるしかない。

子どもは一桁年齢の内に躰なければ二桁年齢での躰は難しくなる。「言わないのが楽」「見ざる・聞かざる・言わざる」の風潮が多い中、家庭、地域、学校一体となって本気で取り組まなければ大変な事態となる。ときには心から怒ることも必要だと思う。

私も5年生の時、親父に思いっきり怒られた思い出が1回だけある。私に子どもができた時、ずっとこのことを覚えていて話してくれた。

今そんな親父の後姿を追っている。